

中国の生鮮ナシ輸出

FreshPlaza 2024年11月18日

インドネシアは中国産生鮮ナシの輸入枠を導入する可能性

河北省の青果用のナシの収穫は完了しており、全体の出荷量は昨年比べて約5%減少した。また、好ましくない天候条件のため、高品質な果実の割合は著しく低くなっている。一部の取引業者は、2023年シーズンの市場価格の変動により損失を被ったため、2024年産生鮮ナシの仕入れを減らした。

生鮮ナシの大手生産・調製・輸出業者である河北雄瀚農産物会社が、現在の輸出市場に関する考察を提供した。以下は同社の李販売部長の話である。

「最近の輸出量は比較的安定している。これは主に、取引先からの注文が回復してきているのとクリスマスの準備によるものである。前年同期比で大きな変化はないが、今年はヨーロッパとアメリカの市場からの注文が増えており、出荷が速く進み、在庫がはけるペースが速い。」

李氏は、輸出の潜在的な課題として輸送コストを強調した。「輸出の最盛期に入中、海外の輸入業者からのクリスマス関連の出荷に対する要請が急増したことで、アジア、ヨーロッパ向けルートをはじめとして輸送コストが上昇している。東南アジア向けは90%~100%の上昇が見込まれ、ヨーロッパ向けは約30%上昇する可能性がある。一方、南米向けの輸送コストは安定しており、北米向けのコストはわずかに低下したため、これらの地域では影響が少ない。」

輸送コストの上昇の影響について、同氏は次のように指摘する。「現在、北米及び南米市場向けの注文を履行するために残業で対応している。ヨーロッパ向けの輸出はやや影響を受けているが、取引先はこの季節には高い価格を受け入れることを余儀なくされている。価格に敏感な東南アジア市場では、注文を減らした取引先がある一方、さらなる運賃高騰をヘッジするために注文を増やした取引先もある。全体としての出荷量は安定しており、この市場を注意深く見守っている。」

李氏はまた、来年1月に発効すると見られるインドネシアの生鮮ナシ輸入割当制度の可能性についても言及した。「この政策は、販売に熱心な業者の間で懸念を引き起こし、その結果、収穫以来、国内の価格は比較的安定している。インドネシアの取引先によると、割り当て(クォータ)制度により、輸出業者はグローバルGAP認証を取得する必要がある、クォータは認証を受けた面積に基づいて割り当てられる。これまでと異なり、輸入業者は自由に輸入することができず、その年の割当を計画する必要がある。」

「一部の生鮮ナシ輸出業者は認証を取得しているが、要件を満たしていない業者はインドネシア市場に関して悲観的である。この状況を緩和するために、一部の業者は、輸入業者が新しい制限に対抗して在庫を積み上げることを予想しており、12月中に大量の生鮮ナシを輸出する可能性がある。弊社は16年連続でグローバルGAPの認証を受けており、これらの変更の当社の業務への影響は最小限に抑えられている。」李氏は、今後、来年上半期の生鮮ナシ市場の形成には在庫水準が重要な役割を果たすと述べた。

同社は香港で開催されたアジアフルーツロジスティカにも参加した。李氏は、「今年は、残留農薬を厳しく制限した高品質の生鮮ナシを求めるヨーロッパとアメリカの取引先に合わせた受注ベースの植栽を導入した。植栽管理計画で協力することにより、これらの厳しい要件を満たすナシを供給し、その独占的な提供を確実に行うことができる」と締めくくった。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)